

5-5

聴覚障害者を職員として配置した養護老人ホームの1年間

コミュニケーションのすれ違いから起こる人間関係問題の克服

養護老人ホーム

相談員 山本 志保 東京都東村山市富士見町2-1-3	相談員 福原 嵩人
TEL : 042-391-2578	E-mail : http://www.t-souseikai.or.jp
FAX : 042-392-1733	URL : http://www6.ocn.ne.jp/~sousei2/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人東京蒼生会が経営母体である養護老人ホームは、昭和35年9月に開設（定員236名）し、その後昭和58年の改築に伴い定員を150名に変更。また軽費老人ホーム第三万寿園（定員50名）を併設し、協働運営を実践している。
----------------------------	---

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 利用者とのコミュニケーション力が求められる現場へ聴覚障害を持つ職員を配置。○ 健聴者である職員が障害者へのノーマライゼーションの考え方の理解と実践。○ 利用者は聴覚障害職員の影響を受け利用者自身が「自立」の大切さを理解。 <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 聴覚障害職員の受け入れ体制<ul style="list-style-type: none">・サポート体制の確保・会議時等の伝達の工夫・OJTにおいて、連絡ノートを活用・聴覚障害職員の特技を生かした業務の増加・文字盤を使用し正確な情報伝達を行う・居室担当者として支援サービスの実践○ 設備・環境の整え方○ 緊急時の対応<ul style="list-style-type: none">・利用者の事故等の場合・聴覚障害者自身の事故等の緊急時連絡方法○ 職員研修（手話講座）の開催	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ サポート役を行う職員は、徐々に限られた者になった。○ 聴覚障害職員と健聴者とのチームケアの困難さが出てくる。○ コミュニケーションから生じる人間関係の問題の対応に苦慮している状況が生じた。○ 利用者は障害者職員とのコミュニケーションの中で、笑顔や優しさが増え受け入れが円滑にできた。○ 職員研修において手話を学ぶ機会が増えた。 <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">○ 現場の「想定外」である、コミュニケーションにハンデのある職員を受け入れる難しさを正面から受け止め、ノーマライゼーションの考え方の実践。○ 聴覚障害者の職場定着を推進するとともに、このことが利用者本位のサービスの実現に結びつくことの実証。
---	--

【メモ欄】